

朝鮮石人像を訪ねて (38)

深田 晃二

☆ 神戸・岡本八幡神社北方 (2) ☆

(N34.73652, E135.27323)

通信 269 号・訪ねて(35)で山下さんから紹介されたこの場所を、暑い8月22日に訪問した。最近走力が衰えてきて片道6km程でも不安があったが、ジョギングで行くことにした。

阪急岡本駅の直ぐ西の猪の良く出ると言う天井川に沿って北上。急な坂道が六甲山に向けて延びている。

岡本八幡神社の西側を通して更に登っていく。100m程で車道が左に急カーブする所に、「八幡谷入口、阪急岡本 1km、打越峠 2km、金鳥山 3km」の看板がある。打越峠・金鳥山方面に向かう。

ここから山道で、急に森の雰囲気になり、右側の深い谷底の水音が涼しさを誘う、と同時に鬱そうとして人気もなく1人だと寂しさも感じられる。



殆ど平らな道を 100m も行くと赤い前掛け姿が見えて来た。波形帽 (内侍) の2体であり、一体は道の



正面を向いてハイカーを迎える形、一体は道の脇から道に向かっている。ニット帽と前掛けは変わらず身に付けていたが、撮影のため脱いで頂いた。冠や手



にもつ小形の笏は通常であり、半島から来たものに間違いない。

山の中に有り、説明文もないので由来は全く分からない。篤志家が所有権を放棄して設置してくれたの

であろうか。

撮影中に1人の男性が走って登ってきた。元気いっぱいの若い人が、急に現れたので驚いた。案の定、帰りは自宅まで全行程歩きとなった。



☆ 岡山県・早島町小学校前 ☆

(N34.60445, E133.82845)

2014年12月1日、岡山県早島町の小学校に行く



機会があった。校門前に朝鮮燈籠が一基あった。この燈籠には文字が刻まれていて、最近日本で作られたことがよく分かる。壁に面した所の撮影を忘れたが、同行者の説明によると前々市長が作ったとのことである。

朝鮮式の燈籠に魅せられた人がここ岡山県早島町にもいたのである。早島町は小学1校、中学1校の小さい町で、佐藤姓の多い土地柄である。

☆ 鳥取県・倉吉商工会議所前民家 ☆

(N35.43365, E133.82421)

島根県雲南市木次(きすき)町での亡母の初盆の勤めを終わり、西宮への帰宅途中に8月19日から一泊で鳥取の三朝(みささ)温泉にねぎらいの旅に出かけた。途中、尼子氏の月山(がっさん) 富田(とだ)城、横山大観の絵や庭園で知られる足立美術館、たたらや玉鋼(たまはがね)で有名な安来市の和鋼博物館、日本海と弓ヶ浜を見下ろす弥生集落跡の妻木晩田(むきばんだ)遺跡、白兎神社等をめぐりながら、倉吉の白壁土蔵群を見学した。古民家を活用した店に、旧家からの蔵出し唐津や有田や塗り物汁椀が5客揃いセットで手頃な価格で多く販売されていた。我が家も何点か買い求めてきた。妻木晩田遺跡で初めて四角突出墳丘墓を見た。炬燵に布団を掛けたような、出雲独特の王の墓である。現場は周囲の石積みだけが残り墳丘部分は平になっていた。



四角突出墳丘墓の説明図



倉吉の町は、「まちかど美術館」といって、各人が持っている博物館展示級の物を自分の家のショーウィンドウで展示する運動をしていた。私も空き家になった木次町の店舗跡で同様の展示をやりたいと考えていたが、やはりこの趣旨は良いなあといき感動した。何点か懐かしい道具類の写真を載せる。



犬も歩けば棒に当たるのとえどおり、ぶらぶら見物中に石人像を一体見つけた。倉吉商工会議所前の個人邸で、きちんと整理された坪庭に、墨で銘の入った波形帽の文人像である。左の袖下にくっきりと「5五：5号」と書いてある。ハングルで書いてあるから半島



から運び出す時に書かれたものであろうか、文字が書いてある石人像は非常に珍しい。



★ 鳥取県東伯郡琴浦町「風の丘公園」 ★

(N35.50639, E133.66460)

東伯郡琴浦町にある日韓友好交流公園「風の丘」に寄ってきた。韓国と鳥取の交流と言えば1992年のバルセロナオリンピック・マラソンでの黄選手と森下選手のモンジュイックの丘でのデッドヒートを思い出す。てっきりこのマラソンが公園のテーマと思っていたが、

実は遭難救助が発端の友好がテーマであった。

道の駅ポート赤碕に隣接して資料館・物産館とこの公園がある。二度に亘る遭難救助資料が展示してある。交流に感銘を覚えるので現地の説明を要約しておく。

「1819年、韓国蔚珍（ウルジン）郡平海を出航した商船が嵐で難破し赤碕沖に漂着。鳥取藩は安義基船長以下12名を保護し、手厚くもてなし長崎まで送り届け一行は無事帰国した。この史実を物語る掛け軸が鳥取県立図書館に保存されている。

また、1963年2月16日、釜山港を出港した韓国慶尚南道巨済島の漁船成進号が機関の故障で漂流し赤碕沖に漂着。一度は激浪のため救助ロープが切れて船は流され、約100m沖合で座礁した。乗組員8名は、陸から届いたロープを体に巻き海中に飛び込み、全員無事に陸まで泳ぎついた。

乗組員8人は、近くの民家で食事をし、風呂に入り暖を取った。最初は密航者と疑われ、警察の取り調べも受けた。赤碕町では、町民が乗組員の食事、住居、寝具衣類の世話をを行ったほか、町長等が発起人となって募金活動を行い、募金を乗組員に届けた。乗組員は町民の温かい援助を受けながら、約1ヶ月間赤碕に滞在した。

3月30日、船体の修理を終えた成進号は、町民約100人が見守る中、5色のテープに送られ、赤碕港を出航した。4月2日午後12時、成進号は無事釜山



5色のテープに送られ、韓国に向け赤碕港を出港する成進号 (1963.3.30)

港に帰還し、その後、船主、船員一同から赤碕町長宛に礼状が届いた。このような史実をふまえ、漂着地を見下ろす

この地に日韓友好の永続を願い、鳥取県・琴浦町と韓国の交流及び情報発信拠点として、この公園を整備した。現在、琴浦町は蔚珍郡そして1997年に友好親善交流協定を締結した江原道麟蹄（インジェ）郡と交流を行っている。」

1890年、和歌山串本沖で遭難したトルコ軍艦エルトゥールル号では587人が死亡したが、地元住民が69人を救助し友好関係が続いている。朝鮮半島からの人・文化の到着地点での日韓友好も大切にしたい。

残念ながらこの公園には石人像は無かった。 (続)